

分科会 16

知ってたら違った？ 当事者が語る学校メンタルヘルス教育

篁宗一（静岡県立大学）
上松太郎（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
松浦佳代（東京医科歯科大学大学院生）
井ノ口恵子（横浜市立大学大学院生/更生保護法人まこと寮）
倉田真奈美（さかつる WRAP）
澤田優美子（日本社会事業大学大学院生）
志村和哉（東京都公立学校スクールカウンセラー）
大島巖（日本社会事業大学）
渡辺洋子
深澤裕二

本分科会では、学校メンタルヘルス・リテラシー研究会が 2004 年度より取り組んでいる、学校メンタルヘルス教育プログラムについて紹介や、普及・啓発を行っています。今年度は、前半に教育プログラムの紹介をしつつ、後半部分では当事者の方 4 名による、学校教育に関するシンポジウムを行いました。

前半：学校メンタルヘルス教育プログラムの紹介

前半では、学校メンタルヘルス・リテラシー教育研究会の活動内容と、実際の授業の例について紹介しました。また、今年度作成した学校メンタルヘルス・リテラシー教育ツールキットを紹介し、現在の研究会の活動展開についても触れました。

後半①：当事者からのスピーチ

分科会後半では、4 人の当事者による学校メンタルヘルス教育についての講演を行いました。

深澤裕二氏：中学校で周囲に理解が得られず苦しんだ体験をもとに、メンタルヘルスの問題で苦しむ児童・生徒をサポートする方法等の提案や、学校メンタルヘルス教育の必要性を、実施するメンバーの家族の立場からお話ししました。

渡辺洋子氏：これまでの体験から感じる学校メンタルヘルス教育への思いや必要性について、千葉県でのピア・サポート活動や、学校メンタルヘルス教育の授業を実施するための学校との交渉、また中学校生徒への講演などのご経験を踏まえ、お話ししました。

澤田優美子氏：高校生当時の周囲に対する思い、進学や自分自身と向き合ってきた体験、また高校で行った学校メンタルヘルス教育の講師体験など、学校教育に対する願いや精神保健に関する知識を普及させる必要性をお話ししました。

倉田真奈美氏：中学生を対象に、実際に行った授業の内容や、自身の疾患に対するさまざまな経験や思いをこめた講義について、また WRAP コーディネーターとしての豊富な経験も交えて、切実な思いを話します。

後半②：質疑応答

後半の最後には質疑応答の時間を設け、プログラム紹介とシンポジウムの内容をもとに、会場の参加者からの意見を募りました。参加者の皆様それぞれの体験や、学校教育に関する疑問、プログラム内容に対する質問など、活発な意見交換がなされました。

＜志村和哉（東京都公立学校スクールカウンセラー）＞